

摂関政治と国風文化

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

藤原氏はどのように政治の実権をにぎり、どんな文化が栄えたのだろうか。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 藤原氏の摂関政治

藤原氏の政治

摂関政治

藤原氏が摂政や関白となつて、政治の実権をにぎった政治。

藤原道長

4人の娘を天皇や皇太子のきさきにし、摂関政治の全盛期を築いた。

藤原頼通

道長の子。約50年にわたって摂政・関白をつとめた。

9世紀の中ごろから、朝廷では中臣鎌足の子孫である藤原氏が力を強めた。藤原氏は娘を天皇のきさきにし、生まれた子を天皇に立てて、天皇の母方の親戚として力をふるった。天皇が幼いときは摂政、成人してからは関白という職について政治の実権をにぎった。この政治を摂関政治という。

摂関政治は、11世紀前半の藤原道長とその子の藤原頼通のころに最も栄えた。道長は4人の娘を天皇や皇太子のきさきとし、1016年には孫にあたる天皇の摂政となった。頼通も、約50年にわたって摂政・関白をつとめた。

役職	はたらき
摂政	天皇が幼いときに、天皇に代わって政治を行う
関白	天皇が成人したのち、天皇を助けて政治を行う

2 国風文化と浄土信仰

かな文字と念仏

国風文化

唐の文化をもとに、日本の風土や生活、感じ方に合わせて生まれた文化。

源氏物語

紫式部が書いた長編の物語。

浄土信仰

阿弥陀仏にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰。

平等院鳳凰堂

藤原頼通が宇治(京都府)に建てた阿弥陀堂。

10～11世紀には、それまでに取り入れた唐の文化をもとに、日本の風土や生活、感じ方に合った国風文化が栄えた。漢字を変形させたかな文字がつくられ、宮廷に仕える女性の間で使われて、紫式部の源氏物語や、清少納言の随筆枕草子が書かれた。

和歌もさかんによまれ、紀貫之らが古今和歌集をまとめた。また、念仏を唱えて阿弥陀仏にすがり、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が広まり、藤原頼通は宇治(京都府)に平等院鳳凰堂を建てた。

問いへの答え

藤原氏は、娘を天皇のきさきにして生まれた子を天皇に立て、天皇が幼いときは摂政、成人後は関白として政治の実権をにぎった。この摂関政治は藤原道長・頼通のころに最も栄えた。このころ、日本の風土や感じ方に合った国風文化が栄え、かな文字による源氏物語などの文学や、浄土信仰による平等院鳳凰堂が生まれた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

